

IPPS-J 第19回静岡大会が浜松にて開催。 IPPS国際理事会も日本で同時開催。

(株)赤塚植物園 藤森 忠雄

10月27日(土) 28日(日)の両日、IPPS-J 第19回静岡大会が浜松市で開催されました。例年どおり、研究発表と産地見学が行われましたが、今回の大会の特徴は、国際理事会が1週間前から開催されていたために、海外からの会員20数名も研究発表や産地見学へ参加されたことです。IPPSらしく国際色豊かな大会になりました。海外からの会員との交流も広く又、深く出来たのではないかと思います。

大会前夜のウェルカム・パーティーでは、IPPSの会長を1年間無事に勤められた、仁藤伸昌会員がIPPSのDavid Cliff氏よりその功労に対して感謝の印として記念品(金時計)を贈られました。仁藤会員には本当にご苦労様でした。

大会当日の研究発表は11題のうち3題は英語による発表でした。

また特別講演では静岡大学の石惇名誉教授により「リンゴのふるさと」と題して、中国で野生リンゴの貴重な遺伝資源を守るために活動された大変に興味深いお話を沢山のスライドによ



静岡県立農林大学にて

り伺いました。1999年には日本中国共同で『伊犁有用植物資源圃』が完成し将来の活動の起点になっているとのことでした。

また、今年の4月に、交換研修生としてニュージーランドへ派遣された本間有喜さんから研修報告がありました。3週間、ニュージーランドのIPPS会員のお世話で見聞を広めたことは必ずや本人の役に立つことと確信します。

夜の懇親会では、武田恭明会員が長年IPPS-Jの発展のために功労があったことを顕彰され、IPPSの会長である仁藤伸昌会員からIPPS名誉会員証を授与されました。武田会員にはこれからも会の発展のためにご尽力をお願い致します。

その後、会は大変に盛り上がり、歌や踊りで大盛況でした。

2日目の産地見学は午前中に静岡県立農林大学校、とびあ浜松緑花木センター、午後は浜松フルーツパーク、浜松花きへの見学でした。それぞれ見聞を広げた大変に意義ある見学になったことと思います。



目次

ニュージーランド交換研修生受入れ(水谷 朱美) … 2	設立30年を迎えるタクトが注目する新しい観葉植物(西川滋) … 9
培養土づくり 30年(遠藤 弘志) … 4	人と人の触れ合いの大切さ(鄭 新淑) … 10
国際理事会参加者の紹介 … 5	IPPS-J 第九期理事・監事・役員・理事代理名簿 … 12

ニュージーランド交換研修生受入れ

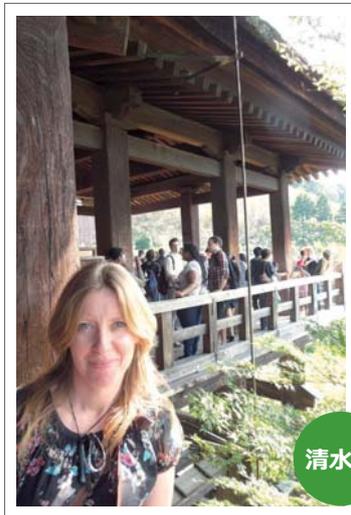
株式会社ベルディ 水谷 朱美



今年初めての女性研修生で、とてこやかで好奇心とチャレンジ精神旺盛なタウポネイティブプラントナーセリーに勤める39歳のジュリエットでした。彼女の会社の社長は、出掛けた土地の植物園を見てきたかと必ず聞くそうなので、今回は植物園を目的地のひとつに入れました。

さて、案内初日の13日は、京都観光から始まりました。自転車で周った昨年のリチャードと違って一日観光パスを利用してバスや地下鉄を乗り継ぎ徒歩で巡りました。三十三間堂からスタートし、清水寺では仏前結婚式をあげたカップルを見る事が出来ました。清水坂から八坂坂に入り、八坂の塔を見つつ建仁寺を拝み祇園を抜け四条通へ出て、鴨川を渡って河原町の人多さに圧倒されながらバス停を探し、京都府立植物園へと向かいました。府立植物園は、これといった植物に出会えなかったことと、洋風な園庭設計であったのが残念そうでした。その後閉門時間にぎりぎり間に合って金閣寺にすべりこみ、夕日に輝く舍利殿を見せることができました。慌ただしく移

動したため、抹茶を飲めなかったことと彼女はビーチサンダルだったためかなり疲れさせてしまい、明日はもっと休憩しながら歩こうと夕食の串焼き屋さんでビールを飲みつつ反省会をし、翌日は大



清水寺

阪城と長居植物園をのんびりと周りました。お昼御飯で食べた本場大阪のお好み焼きは、自分でも出来そうだと作っていたおばちゃんの手元をしっかりと見ていました。

15・16日は弊社と豊橋市内の会員や知り合いの施設と市立動植物園等を案内しました。培養施設に入ってもらった際は、ニュージーランドにも培養会社はあるが、一度も中に入ったことがないと喜んでもらえました。タクト社では西川社長に球根等のパッキング場を案内していただき、山久園の山口さんの温室では、コルディリネを見ながら娘さんの留学していた街にジュリエットのお母さんが住んでいることがわかり、何だか世界の狭さを感じました。豊橋駅前にある生花店の花一さんでは素敵なアレンジやサントリーの青いバラが1本3,000円で販売されていることにとても驚いていました。吉田城址にある茶室でやっと抹茶を試してもらい、そこにある水琴窟を案内してもらえたりしました。豊橋動植物園では、熱帯温室や動物園を楽しんでもらいました。

昨年の研修生のリチャードや国際理事代理の



金閣寺

ニュージーランド交換研修生受入れ

ベルディ社
にて



タクト(株)にて
西川社長と
ともに

ピーターと過ごしたことでGAIJINに免疫ができたらしく、私の十分でない英語でも結構平然と時間が過ごせるようになり、ニュージーランドでは10代で子供を産む率が高く、シングルマザーも増えたが、子供が16歳になるまで政府の援助があって働かなくても生活できる制度があるなんていう話（どれほど正確かわかりませんが）を聞くこともできるようになりました。彼女は、街や道路がとても綺麗で落書きが本当に少ないと驚いたり、温泉には裸で入るという話を聞いて驚いていました。私が面白かったのは、彼女が車窓から農地を眺めていた時に「羊や牛等の動物はいないのか」と聞いたことでした。羊だらけの国に住んでいる彼女にしてみれば確かに不思議な光景なのだろうなという質問でした。

私の次は、三重の内田さんの農場でイチゴ苗の定植作業を手伝ったり、少林寺拳法の稽古を見ることができたり、奥さんの美味しい手料理

を堪能できたり、とても満足した研修になったようです。今年は国際理事会に伴う国際ツアーが催行されたため、後半はツアーに同行することになりましたが、とても素晴らしいと言っていました。最後の見学会の際は、事前に研修していた静岡農林大学校の製茶工程を皆に英語で説明してくれました。私にとっても今年も良い経験が出来ました。

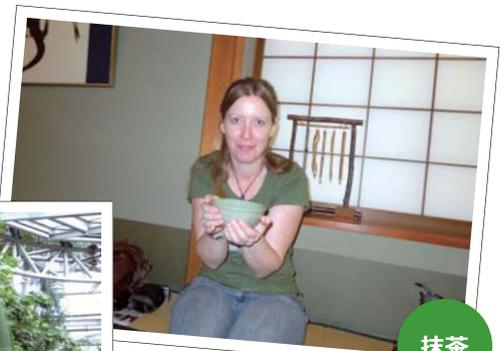
来年は岐阜大会ですので、違った切り口の研修をさせてあげられると良いなと思います。ジュリエットもいろんな農場を見たいし、いろんな仕事を体験してみたいと言っていました。ニュージーランドは160名の会員がおり、日本で研修したい人は山ほどいるそうです。宿泊研修は無理でも昼間だけ作業体験をさせてあげるだけでもよいので、皆さん是非名乗りをあげてください。よろしくお願いします。

花一



豊橋
動植物公園

抹茶



培養土づくり 30年

揖斐川工業株式会社
新事業開発部 取締役部長 遠藤 弘志



当社の培養土は田植え用の苗を作る水稲用育苗培土からスタートし、次は岐阜・愛知を中心とした鉢花生産者向けの培養土を手掛けてきました。元は当社の主力製品である砂利の生産工場から排出される沖積土（粘土）の有効利用から始まった事で、水稲用育苗培土としては山土等を使わない異例な原料でした。この原料の良い処は、品質が安定している事と豊富な排出量で有った事で、性質では保水力、保肥力が低く、粘土分が少ないため造粒するには苦労しました。

年間の生産量は3.2万トンで、農協から販売しています。大半の用途先は農協が管理する水稲用育苗センターで、3月中旬に三重県から始まり5月末に岐阜の晩生品種の育苗で終了します。此の間に各地の育苗センターで生産される苗は、400万トレイ以上におよび、此の苗を使って田植えされる耕作面積は約22,000haほどになり岐阜・三重では40%程度のシェアとなります。

園芸用の培養土は、ピートモス、ココピート、赤玉土、鹿沼土、バーミキュライト、パーライト等の原材料を配合し、顧客の栽培品目に合わせた培養土を生産しています。鉢物・花苗用の培養土がメインで、これらは栽培品目が多岐にわたるため多くのスペックを持っています。此処でも原則としているのは製品の安定供給で、顧客の要望に合わ

せたスペックと当社から品目ごとに提案するオリジナルスペックで使って戴いています。

培養土全般の品質管理は、専門部署があり、ISO9001の認証取得を契機にマニュアルの更新を行い管理されています。例えば原材料の受け入れ検査は、まず物理性、化学性の検査をしますが、それ以外に検査植物を対象原材料に播種し、正常に発芽・生育するかをみるバイオアッセイによるチェックもしています。

水稲培土の製品検査では、1日の生産から時間を決めて4回抜き取りで培土を回収し、標準検査を行い、基準値に入らないものは不適合製品として出荷ラインから外します。また別途に1日当たり1検体を抜き出し、それを使って苗の硬化時期までの育苗試験を行います。園芸用培養土では、生産顧客毎に少量を検査用に抜き取り、pHとECの当日検査と1週間後の経日変化の検査を実施し、これらの検体は6ヶ月間保管しています。

新たな取り組みとして土壤改良剤の生産にも着手してきました。今後は植物栽培の中で園芸用の植物に使いやすい培養土を目指し研究をつづけ、新商品の開発に邁進していきます。

また会社では新たに新事業開発部を立ち上げ、IPPS愛媛大会で研究発表した害虫ハスモンヨトウの微生物農薬「ハスモンキラー」の事業化とアグリシステム部が販売する多収型のトマト栽培システム（IKポット耕システム）の技術支援向けの実証農園を整備する事になりました。次の機会には此の事をテーマに記事とさせていただきます。



温室

国際理事会参加者の紹介

今回、IPPS国際理事会に来日された皆様の内、アンケートにお答えいただいた皆様のみを顔写真と共に紹介いたします。アンケートを頂けなかった皆さんには申し訳ございません。(アンケートの翻訳は鉄村会長様にお願いしました。)

Alan Jones (アラン・ジョーンズ)

出身 マナー・ビュー・ファーム、メリーランド州、アメリカ
職業 樹木苗のオーナー IPPS会員としての年数 33年



Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？

世界中の多くの国のたくさんの友人。
技術的な情報を得ることによる発根や栽培に関する問題の解決。

Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？

日本のIPPS会員や苗木業者と知り合いになりたい。

Q. 日本についてどう感じましたか？(庭や食べ物、景色、人々など)

とても興味深い文化を持つ国。とても歓迎されていると感じました。

Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？

友好的に歓迎された。いろいろ手伝ってもらいました。多くの見たこともない食事を食べたこと。
日本の文化と歴史を理解することができた。

James Conner (ジム・コナー)

出身 カリフォルニア州、アメリカ
職業 観賞植物のコンテナ栽培、及びその繁殖
IPPS会員としての年数 30年

Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？ 教育の継続とネットワークの拡大

Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？ すべてとても新しい。

Q. 日本についてどう感じましたか？(庭や食べ物、景色、人々など)

とても美しい国。そして素晴らしい人々。

Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？

最も印象に残ったのは小さな庭。

Hans Sittig (ハンス・ヤーセン・シティッグ)

出身 南アフリカ
職業 2つの会社(花壇苗販売及び花種子の卸業)の最高責任者
IPPS会員としての年数 17年



Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？

大会で園芸のトレンドを知ること、産地見学、市場の開拓

Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？

2014年に南アフリカで開催される国際会議に参加して下さい。見学
そして大会にも参加して下さい。あなたたちが来ることを楽しみにしています。

Q. 日本についてどう感じましたか？(庭や食べ物、景色、人々など)

美しい国、興味深い食事、とても優しく礼儀正しい人々、東京のような大都会を見学するのは興味深い。

Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？

「植物工場見学。歴史的な寺や神社の見学。どのようにして日本人が生活しているか見られたこと。

国際理事会参加者の紹介

David Cliff (デビッド・クリフ)

出身 オーストラリア

職業 苗木園主 (樹木、果樹) IPPS会員としての年数 30年



Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？

情報交換、世界中のナーサリーと知り合うこと

Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？

Seek and share. 長期間の友情関係。

Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)

日本を本当に気に入りました。特に食べ物、友情、農業と園芸における相違点。

Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？

田舎。生活し、働いている人々の様子。

Peter Lewis (ピーター・ルイス)

出身 ブリスベーン・クイーンズランド州・オーストラリア

職業 国際園芸コンサルタント

(アジアの国々での苗生産における園芸コンサルタント)

IPPS会員としての年数 1983年以降



Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？

専門家とのネットワーク、長期間の友情。最新技術情報の入手。

Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？

日本の情報を英訳して下さい。

Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)

素晴らしい国。観光客として近々、再訪問します。

Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？

積極的な手伝い。伝統へのこだわり。寛大さ。清潔さ。

Peter T. MacDonald (ピーター・マクドナルド)

出身 スコットランド (イギリス・アイルランド支部)

職業 講師 (園芸学、スコティッシュ・ルーラル・ユニバーシティ・カレッジ)

IPPS会員としての年数 30年



Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？

産業界から最新情報を入手し、教育に利用。海外の園芸事情の視察。

友情。英国やヨーロッパにおける学生交流。

Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？

イギリス・アイルランド支部を訪問して下さい。

Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)

全員がとても礼儀正しい。すべてがとても清潔。食事は私の国ととても異なっているが、とても楽しんでいます。庭や家の周囲がとても管理されており、自宅管理のアイデアとなりました。

Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？

家族経営のナーサリー、彼らの情熱、彼らが私達にしてくれた親切と歓待。

Charles Heuser (チャールズ・ハウザー)

出身 アメリカ

職業 IPPS編集長 (ペンシルバニア州立大学退職)

IPPS会員としての年数 1963年から



- Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？
(編集長としてまた教師として) ブラックブックは教育及び本としてとても素晴らしい価値があると思っています。
- Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？
(編集長として) IPPS日本支部からの質の良いペーパー (論文) を提供し続けて下さい。
- Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)
全員がとても素晴らしい。
- Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？
素晴らしい人々とすてきな見所。

Fred Hopkins (フレッド・ホプキンス)

出身 ワシントン州・アメリカ

職業 苗木園主 IPPS会員としての年数 32年

- Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？
知識、友情。
- Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？
(未記入)
- Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)
素晴らしい人々と国。
- Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？
道路沿いの苗木畑。

Ted Bilderback (テッド・ビルダーバック)

出身 ノースカロライナ州・アメリカ (アメリカ北部支部)

職業 JCラウルストン植物園長

(ノースカロライナ州立大学・観賞植物及び苗作物分野の教授)

IPPS会員としての年数 29年



- Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？
支部長、国際理事として役割を果たすことの名誉。知識の交換。友情。
- Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？
会員と会い、知り合うこと的機會。
- Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)
とても独特な園芸産業や栽培方法。
- Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？
親切なもてなし。独特で美味しい食事。素晴らしい園芸。

国際理事会参加者の紹介

Verl Holden (パール・ホールデン)

出身 シルバートン・オレゴン州・アメリカ
職業 生産者 (観賞植物苗・ヘーゼルナッツ栽培)
IPPS会員としての年数 50年



- Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？**
友人。もし会員になっていなければ訪れないような場所への訪問。ブラックブック。
- Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？**
IPPSへの参加
- Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)**
日本を愛しています。庭も、食べ物も、景色も、人々も。クボタのトラクターを私は7台所有しています。ホンダ車も持っています。エンジン。ATV(オフロードカー)。
- Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？**
1954年に訪問して以来の再訪問ですが、驚くほど進歩していました。

Ian Duncalf (イアン・ダンカルフ)

出身 ニュージーランド
職業 苗木園主、生産者、代理店
IPPS会員としての年数 1980年から (32年)



- Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？**
友情。知識。ニュージーランド国内、そして海外への旅行の機会。
- Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？**
日本の産業について学びたい。彼らがどのように栽培管理しているのか。
- Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)**
とても異なる文化。考えや行動がとても異なることを見つけるのはとても楽しい。庭は魅力的で、人々は素晴らしく、食事も美味しい。
- Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？**
美味しい食事、素晴らしいもてなし。そして完全に異なる文化。

Bernard Brennan (バーナード・ブレンマン)

出身 アイルランド
職業 園芸アドバイザー **IPPS会員としての年数** 31年



- Q. IPPSから受ける恩恵は何ですか？**
技術的な知識の強化。国際的な情報交換。
- Q. 日本支部に期待していますか？それは何ですか？**
友情の形成。個人レベルでの技術の世界的交流。
- Q. 日本についてどう感じましたか？ (庭や食べ物、景色、人々など)**
礼儀正しい人々。高品質の商品とサービス。
- Q. 日本で経験したことで最も記憶に残っているのは何ですか？**
我々に対するおもてなしと礼儀正しさ。

設立30年を迎えるタクトが目にする 新しい観葉植物

タクト株式会社
代表取締役社長 西川 滋



我が国では、主食である米や野菜などの食糧が満たされ、家計に余裕が出来た1960年頃から珍しい植物として、アナナス類などの観葉植物が一般家庭で楽しめる様になりました。当時の栽培は、自家増殖による『多品目少量生産』中心の時代でした。

その後1980年代の家庭の洋風化にともなって、ブームとなったのが『グリーンインテリア』としての大鉢観葉植物でした。その中心となったのが、『パキラ』や『ドラセナ・マッサンゲアナ』などの原木輸入による海外とのリレー栽培による観葉植物でした。このリレー栽培により観葉植物の大規模経営が成立しました。以来、弊社『タクト』は、海外とのリレー栽培の援助を続けています。

しかし近年の個性化時代を背景に、一般観葉植物の需要も陰りを見せてきました。この時代を生き抜く観葉植物経営としては、個性のある観葉植物の作出が必要不可欠です。今こそ、生産者やそれを援助する人たちの消費を促す先見力が試されていると考えます。

まだまだ、海外へ目を向ければ埋もれた宝『観葉植物』も多くあります。ともに新しい消費ブームを見据えての発掘をしたいと考えます。さらには、グリーンインテリアブームのために、忘れ去られたインコアナナス、フリージア・ポエルマニーの各種、エクメア・ファシャター、カラテアの各種、デフェンバキアの各種など知らない消費者が増えてきています。もう一度ブームを作るチャンスが来ています。関係者の一人として支援できれば幸いです。ぜひご連絡ください。一緒に考えブームを作りたいと思います。

また、弊社では、都心やビルでの生活で、培養土の処理ができない人のために、燃やせるゴミとして処分できる。土を一切使わない、ココナッツの殻を原料とした培養土『エコミックス』の販売もしています。環境にやさしい培養土として注目いただければ幸いです。

今、注目する新しい観葉植物として、『ポリシャス・フルティコーサ』(写真I)、『ポリシャス・マルギナータ』(写真II)を紹介します。テスト栽培をされている方もあると思いますが、本格栽培での生産は極めて少ない。今までの観葉植物のイメージを変える植物です。注目してはいかがでしょうか。

弊社『タクト』が、『ドラセナ・マッサンゲアナ』など原木のリレー栽培に関与してからもうすぐ30年を迎えます。この30年間は、国内観葉植物生産者と二人三脚で歩んで来ました。今後とも新しい観葉植物の時代を創出して行きたいと思えます。IPPS-J会員を始め、観葉植物さらには、花き園芸に携わる多くの人からの、ご支援ご協力をお願いします。



写真I
ポリシャス・フルティコーサ



写真II
ポリシャス・マルギナータ

人と人の触れ合いの大切さ

中部農産振興事業協同組合
理事 鄭 新淑



最近テレビで日本と中国、日本と韓国の間で領土・領海問題を巡ってかなりギクシャクしていることがよく報道されている。とても残念に思う。特に日中間は国交が正常化して40年も経過しているにもかかわらず、何かあるたびに敏感に反応・反発をする中国。日中間の数十年間の交流は何だったのか、どうしてすぐ対立してしまうのか。到底理解できない。

日本ではいち早くから国際交流を深めるため世界各国から大勢の留学生を積極的に受け入れている。その中でも、中国の留学生の占める割合が一番大きい。しかしこの事業が開始して数十年経った今、テレビでは反日デモや暴動が減っていくどころか、逆に増えている気がする。私も18年前、留学のために中国から日本へやってきた人間の一人である。私が中国で勤めていた大学は日本の関連大学と親密な関係にあり、留学生や研究者を数多く日本へ送り出している。私自身もその恩恵を受け、念願の留学を実現できたわけである。

正直言って、来日する前、私は周りの人からも「日本通」と言われるほど日本のことをよく知っているつもりであった。しかし、日本へ来てから自分の日本の現状に対する無知を痛感して辛い思いをした上、日中間での国民同士の意思疎通の不足や距離感に驚き、この状態での平和の維持は本当に大丈夫かと不安を抱きはじめて。

当初、日本政府は留学生10万人を受け入れる方針を打ち出していたので、これは日本政府がこの現状を踏まえ、将来のことを見据えてとった対策だと勝手に解釈し、安心してきた。

日本国民の平和と戦争に対する考え方の実態は私の想像を遥かに超えていた。日本は戦争に負け、アメリカに原爆を落とされたことで、悔しい気持ちが絶対心に残っているはずなので、平和に対する考え方に中国の国民と温度差があるのは当然だと思い込んでいた。しかし、日本へ来てみないと分からない現実的な日本国民の考え方、国民性はたくさんあった。「百聞は一見に如かず」先人たちの言葉を体で感じた。私のように中国で生まれ、中国で教育を受け、中国で社会人として生きてきた人間が、実際に日本で暮らしてみてもはじめて、日本国民の目指していること、「平和」への期待感、中国の現状に対する無知、日中間は一応平和に見え、交流がますます深まるものの、実際は政治的な壁がまだまだ高く、民間交流もまだまだ政治に大きく左右されていることを知ることができた。そしてメディアの報道の不十分さも感じた。日本は中国に対して社会主義の国というイメージが強く、日本流の社会主義の解釈と推測で中国の社会を理解していることには少し残念な思いを抱いている。政治的な常識上許されないかもしれないが、隣国でありながらお互い相手国の本当

に知らなければならない実態、国民性と国民の生活基盤になっている基本システムなどについて知らなすぎる。今政治的に口論は不可欠であるが、平和のためにもっともっと必要なのは両国間の人と人とのふれあいだと思う。メディアや報道の偏った情報に基づいて相手国を批判する国民的な行動は一日でも早く終わってほしい。そうしないと平和が維持されるどころか、もっと悪い時代に突入してしまう危険性もある。

相手の国の本当の状況を知らずに批判することは理性を失った行動であり、平和に反する行為である。とにかく人と人が時間かけてふれあってはじめて相手の本質・事実が分かるし、見えるようになる。このような段階を経てこそ、実際に解決しなければならない課題の議論ができるはずである。

私は日本で10年ほど、中国から来る技能実習生の指導と管理業務を行っている。実習生の滞在可能期間は3年間であるが、帰国する際の日本への思いはほぼ全員、好きか嫌いかという次元ではなく、自分の人間性を認めてくれる国、自分たちをいつでも心から受け入れてくれる国だという考えと気持ちで帰国する。そして自分たちをまた日本へ呼び戻してくれるのを待っている人も少なくない。要するに彼らの心の中では日本は第二の故郷として刻まれている。私の経験からすると、日本人と接した経験のある中

国人、中国の社会に触れ、中国の文化や国の政策を知っている日本人ならば、基本的には相手の国に対して反感を持たないと確信している。あってはならない様々な問題が生じているのは、あくまでも人と人との触れ合いの不足から来るものであると断言したい。

自分たちのやっていることは平和のためだ、などと大袈裟なことは言いたくないが、少なくともこの事業を通じて、微力ながら一人でも多くの人に日本での3年間の滞在期間中に日本を正しく理解してもらい、本来の日本を知ることにより自分たちの見方を修正し、心からの友情を持って日本と中国の架け橋の役割を十分に果たしてもらいたい。

日本と中国との間で今の最悪な状態をもたらした一番の原因は、相互の人と人との交流不足や、過剰なメディアの報道によるものだと思う。この状況を打開するためには若い人を含め、もっともっと大勢の人が気軽に相手の国へ渡り、相手の国の文化・教育・思想に直接触れてみる以外に方法がないと思う。科学がいくら発展しても、人間同士の友好・友情を機械で代替することは永遠にないので、私たちは自然な人間のふれあいの大切さを失わないようにもっと智慧を絞らなければならない。

2012年9月30日

役職	氏名	担当	会社・所属	会社・所属住所
1 会長	鈴木 隆博		(株)浜松花き 代表取締役	静岡県浜松市
2 副会長	大橋 広明		愛媛大学農学部 生物資源学科 助教	愛媛県松山市
3 副会長	水谷 朱美		(株)ベルディ 代表取締役	愛知県豊橋市
4 事務・会計理事	南出 幹生		南出(株) 南出(株) 代表取締役	三重県鈴鹿市
5 編集理事	富田 正徳		(株)アイエイアイ エコファーム部	静岡県静岡市
6 国際理事	鉄村 琢哉		宮崎大学 農学部 教授	宮崎県宮崎市
7 理事	石井 克明	インターネット	森林総合研究所 森林バイオ研究センター センター長	茨城県日立市
8 理事	内田 恵介	IPPS活性化	グリーンクラフト 代表	三重県亀山市
9 理事	大西 隆	岐阜大会	(有)セントラルローズ 代表取締役	岐阜県本巣市
10 理事	藤森 忠雄	ニュースレター	(株)赤塚植物園 常務執行役員 社長室長	三重県津市
11 監事	遠藤 弘志	岐阜大会	揖斐川工業(株) アグリバイオ部 取締役アグリバイオ部長	岐阜県揖斐郡
12 国際理事代理	Peter F.Waugh		Carann Managing Director	Matangi 3260 NewZealand
13 国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS活性化	(株)山陽農園 代表取締役	岡山県赤磐市
14 年史編纂委員	佐藤 伸吾		(有)花街道 石部西寺事務所 代表取締役	滋賀県湖南市
15 理事代理	青山 兼人		兼弥産業(株) 事業本部 取締役部長	愛知県知多郡
16 理事代理	速水 正弘		静岡県立農林大学校 教務課 主幹	静岡県磐田市
17 理事代理	小池 安比古	神奈川大会	東京農業大学 農学部 教授	神奈川県厚木市
18 理事代理	仁藤 伸昌	BlackBook	近畿大学 生物理工学部 教授	和歌山県紀ノ川市



静岡県立農林大学校の見学風景



懇親会

編集後記

今回の大会はIPPSらしい国際色豊かな大会になりました。英語での発表も3題ありました。通訳なしのテーマもありましたので、初めての参加者にはびっくりされたことでしょう。英語力を身に付けなければ、思った瞬間だと思います。若い人には、そんな想いを大切に、研究と同時に英語の勉強もして頂ければ結構だと思います。

来年の国際大会はアメリカの西海岸のシアトル、タコマ、オリンピア、ポートランド地方の見学がプレツァーとして計画されています。日本に近い地域ですので、興味のある方は是非参加して見聞を広めてください。

今回はニュースレターの編集長として、IPPSの理事の皆様様にアンケートへの記入をお願い致しました。全員からの回収は出来ませんでしたが、12名から頂いたものを鉄村会長様に翻訳いただき、このニュースレターで紹介しました。IPPSの国際理事の皆様様の考え方的一端が理解できるように思います。参考にして頂ければ幸いです。

この大会を企画・運営していただいた鈴木様、速水様、富田様他協力いただきましたすべての皆様様に心から感謝いたします。ご苦労様でした。有難うございました。

ニュースレター担当：藤森忠雄